

健康づくり施策の進捗状況等について  
( 概 要 )

# 目 次

I 平成 27 年度の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II 平成 28 年度の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(参考資料)

具体的な施策の展開シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 1-2

## I 平成 27 年度の取り組み

「第 2 次健康くまもと 21 基本計画」の 3 つの基本目標である「健康意識の醸成」「健康分野における地域コミュニティづくり」「健康寿命の延伸」を目指し、生活習慣病対策を含む健康づくり施策を推進した。

とりわけ、「がん」対策については、行政関係課による「がん対策ワーキング会議」及び健康くまもと 21 推進会議の委員による「がん部会」において、「本市のがん検診のあり方」及び「受診率向上にむけた取り組み計画」について協議した。

また、本市の健康課題である「CKD 対策」については、かかりつけ医や腎臓専門医等の連携を図ることを目的とした「病診連携プロジェクト会議」において、病診連携システムの効果検証を行いながら協議した。

次に、「校区単位の健康まちづくり」では、健康づくり推進課では職員を対象とした研修会の実施、各区では、区ごとに地域住民との情報交換会を実施しながら、校区毎の取り組みをさらに進めている

- 主な取り組み等 ※ページ数は「資料 1-2：具体的な施策の展開シート」のページ数

### <生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

#### ① がん (P1~3)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 保健師さんと校区運動会などで健康コーナーを設置し、啓発を実施した。若い世代、高齢者、地域役員など 100 名程の方が参加された。【地域包括支援センター連絡協議会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に食事でのがん等の生活習慣病の予防に関する研修、喫煙の健康影響に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 事業場が、がん、脳卒中などの疾病を抱える方々に対して、適切な就業上の措置や治療に対する配慮を行い、治療と職業生活が両立できるようにするため、本年 2 月「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」が公表された。【労働基準監督署】

##### 【行政】

- ・ 満 40 歳になる市民全員にがん検診勧奨はがき (10,633 人)、満 20 歳になる女性に対し子宮頸がん検診受診勧奨通知を送付 (3,663 人)
- ・ 特定年齢 (62、65、68 歳と 67 歳の一部) を対象に肺がん検診の受診勧奨ちらしを個別送付 (33,119 人)
- ・ 協会けんぽ扶養者への特定受診券送付時に市がん検診の案内を同封 (約 27,000 人)
- ・ 大腸がん検診は一定年齢の対象者に、また乳がん・子宮頸がんは、一定年齢者に加え、平成 21~24 年度の検診未受診者に対しても無料クーポン券を送付した。
- ・ がん検診受診を促す川柳を募集し優秀作品を用いた缶バッジを作成した。優秀作品については、市政だよりや検診チラシなどにも掲載した。

#### ② 循環器疾患 (P4~6)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 血圧高値対象者へ高血圧についてのリーフレット配布と説明。(自己血圧測定方法・食事運動療法について) 【日赤健康管理センター】

- ・ 労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん)【労働基準監督署】

#### 【行政】

- ・ 高齢者健康サロン支援等や校区単位の健康まちづくりなどの取り組みを通して、循環器疾患の予防等に関する情報提供や特定健診の受診の啓発実績 (94校区中82校区計438回14,060人)【各区保健子ども課】
- ・ 市民医療講演会のテーマを、「脳血管疾患及び心疾患」として開催。病気や市内の医療機関の優れた治療技術について、医師が市民に分かりやすい説明を行った。(H27年度は1回180名)【医療政策課】
- ・ 重症高血圧の要治療者に対して保健師や栄養士による受診勧奨を実施(文書や電話、家庭訪問等)【国保年金課】

### ③ 糖尿病 (P7~9)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 平成29年度末までに「40歳以上の健診受診者の空腹時血糖110mg/dl以上の割合が減少する」ことを上位目標とし、データヘルス計画を策定した。【協会けんぽ】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り、糖尿病等予防に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 重度の歯周病患者に糖尿病が隠れている場合があるので、検査を勧める。【市歯科医師会】

#### 【行政】

- ・ 校区単位の健康まちづくりの取り組みにおける健康づくりコーナー等において、「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」の協力のもと簡易血糖検査器を活用した住民への啓発を行った。
- ・ 糖尿病の要治療者に対して保健師や栄養士による受診勧奨を実施(文書や電話、家庭訪問等)開催実績5回 医療機関118人、地域等267人、行政136人、計521人

### ④ CKD(慢性腎臓病)(P10~11)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 医療保険者主催のセミナーにおいてCKDの病態やその予防法、及びメタボリックシンドロームとの関連について講演を行っている。【日赤健康管理センター】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、CKDの危険因子である糖尿病や高血圧等に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ H26年度分析結果から、人工透析導入の時期を遅らせるため、独自の基準を設けた対象者へ受診勧奨実施。【協会けんぽ】

#### 【行政】

- ・ 特定健診の結果、CKD予備群の方を対象に、各区役所でCKD予防教室、糖尿病予防教室等を開催 対象者652人中161人CKD予防教室参加
- ・ かかりつけ医から腎臓専門医への患者紹介件数(CKD病診連携実績) 平成27年度120件(累計1,395件)
- ・ かかりつけ医と専門医等によるプロジェクト会議により病診連携システムの効果検証等の実施

## <社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

### ① こころの健康 (P12~13)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 労働者の心の健康の保持増進のための指針により事業場を指導している。また、H27年12月から50人以上の事業場に義務化された「ストレスチェック」について周知広報を実施した。【労働基準監督署】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、職場における自殺の予防と対応の研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

#### 【行政】

- ・ 学校におけるこころの健康についての環境整備や早期発見の取り組みとして、児童生徒や保護者が悩み等を話せるようにスクールカウンセラー、心のサポート相談員の配置やスクールソーシャルワーカー、ユア・フレンドを派遣  
(スクールカウンセラー相談数 延べ4,267件、心のサポート相談員対応件数 延べ13,473件、スクールソーシャルワーカー派遣数521件、ユア・フレンド派遣学校数71校)
- ・ 自殺予防週間等を活用し、精神科医師・弁護士等による包括相談会(相談件数 延べ93件)や、九州・沖縄・山口一斉電話相談(相談件数151件)を実施

### ② 次世代の健康 (P14~15)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 夏休みに「すこやかカード」を配布し、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活リズムが崩れないように取り組んだ。【長嶺小】
- ・ 南区隈庄小学校PTAの取組み。年度初めに「早寝・早起き・朝ごはんアンケート」実施。年度内に2回「生活リズムチャレンジ」を実施して、良好な生活習慣形成への意欲を刺激。【PTA協議会】

#### 【行政】

- ・ 「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」を設置し、乳幼児期の子どもたちとその保護者の食育に携わる保育・幼稚園・地域・行政等の関係機関の担当者が情報共有化のため、全体研修会(2回388人)の他、各区役所にて地域研修会(34回508人)を実施
- ・ 地域の子育て支援を、地域で考え、実践するしくみを作り、活動を支援するため、母子保健研修会や各区役所管内の子育て支援ネットワークにおいて研修会等を開催(計94校区:21回、883人)
- ・ 子育て世代の保護者の孤立化を防ぐとともに健やかに育成できる環境整備を図るため、こんにちは赤ちゃん事業による訪問の実施(区役所1,638件、助産師会1,886件、産科医療機関267件、地域訪問2,672件 計6,463件)

### ③ 働き盛り世代の健康 (P16~17)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 熊本大学政策創造研究教育センター河村准教授グループ開発の健康支援ツール「ロボリーマン」を使った検診受診勧奨・重症化予防のポスターを作成し、検診機関及び事業所に配布。【協会けんぽ】
- ・ 加入事業所の健康経営評価基準「協会けんぽヘルスター認定制度」を創設し、事業所が従業員の健康づくりに取り組む仕組みを構築した。【協会けんぽ】

- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、生活習慣病に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

#### 【行政】

- ・ 地域の保健活動や校区単位の健康まちづくりの活動をより効果的に展開するため、協会けんぽとの連携により、特定健診結果や医療費の分析等を実施
- ・ 校区単位の健康まちづくりの中で、PTA等との連携を図り、健康チェックや生活実態調査、親子学習会等を実施

### ④ 高齢者の健康（P18～19）

#### 【関係機関・団体】

- ・ 50歳を超えてからの健康づくりや転倒リスク回避のための強化法、健康不調を予防するセルフケアのやり方等の研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ ふれあい・いきいきサロンや老人会の集いで、リハビリ専門職等が出向き、介護予防や口腔機能、栄養改善について教室を開催した。【中央区内】
- ・ 楡木校区自治会協議会による、認知症サポート講座を開催予定し、早期発見に努めていく【北区内】

#### 【行政】

- ・ 高齢者健康サロンやその他老人会、地域の会議等で栄養指導や運動（ロコモ予防）、口腔機能維持等についての健康教育を実施 地域における介護予防※・ロコモティブシンドロームに関する啓発実績（94校区中 74校区 計 268回 6,354人）
- ・ 生活機能の低下がみられる高齢者（二次予防事業対象者）に対し、通所による介護予防事業を実施（運動器の機能向上事業・栄養改善事業・口腔機能向上事業 48事業所・参加実人数 1,290人）
- ・ 認知症について正しく理解し、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」を養成するための講座を実施（認知症サポーター養成数 10,751人）

### <健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

#### ① 栄養・食生活（P20～21）

#### 【関係機関・団体】

- ・ 事業場の産業保健スタッフを対象に、健康を支える食育の研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 生活習慣病予防を目的とした献立について、小学校区ごとに調理実習を通じて普及、啓発を行う「すこやか食生活改善講習会（熊本市委託事業）」を実施。<H27年度 実績：94校区 2,180人>【食生活改善推進員協議会】

#### 【行政】

- ・ 市民が健全な食生活を実践するために、対象に合わせた生活習慣病予防のための「食育実践講座」を開催（開催回数 155回）
- ・ 6月の食育月間に合わせた形で食の大切さや食と健康のつながりについて楽しく学ぶイベント「食と健康フェア 2015」を動植物園で開催（参加者 8,786人）
- ・ 市民が身近なところで食育を実践しやすい環境整備のために、栄養成分表示などを実施する「健康づくりできます店」の増加（登録店 201店）

## ② 身体活動・運動 (P22～23)

### 【関係機関・団体】

- ・ 健康支援サイト「日赤 hara 凹ナビ」を制作し、登録者に健康情報を配信している。【日赤健康管理センター】
- ・ 当センター主催で生活習慣病予防や健康増進を目的としたウォーキング・ランニングイベントを実施（計3回 計116名参加）。【日赤健康管理センター】

### 【行政】

- ・ わくわく健康塾でウォーキングやジョギングなどの運動をテーマにした体験型講演会を実施した。
- ・ 広く市民が気軽に参加できる熊本市民スポーツフェスタの実施（参加者：6,480人）
- ・ 健康まちづくり事業展開中の各校区（H27.6現在12校区）から、20名程度の推薦者と一般公募による18歳以上の区民約400名を対象に、合計歩数を競うウォーキングキャンペーンを2ヶ月間実施。

## ③ 休養 (P24)

### 【関係機関・団体】

- ・ 職場におけるスモールチェンジ事業で、からだと心の両面からサポートしている。具体的には月1回事業所が発行するテラーメイド新聞に、休養のとり方やストレス対処法などを掲載している。【協会けんぽ】
- ・ アロマを取り入れたストレスケアや各種リラクゼーション法、筋弛緩法や自律訓練法・ストレッチやマッサージ等のセルフケア研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

### 【行政】

- ・ 地域の各種健康イベント等を通して、健康づくりのための「睡眠指針2014」の内容について啓発を実施 東区（19回 646人）
- ・ わくわく健康塾において、睡眠をテーマに専門医による講演会を実施した。

## ④ 飲酒 (P25～26)

### 【関係機関・団体】

- ・ 保健指導実施時に当センターオリジナルの減酒支援媒体とAUDITを用いて減酒支援を行っている。【日赤健康管理センター】
- ・ 2年生の身体測定時、15分程度、飲酒に関する保健指導を行い、小学校低学年のうちから未成年者の飲酒を予防するよう努めている。【長嶺小】

### 【行政】

- ・ 健康まつり等区内で実施する各種イベントにて、アルコールパッチテストやアルコール関連の啓発を実施

## ⑤ 喫煙 (P27～29)

### 【関係機関・団体】

- ・ 食と健康フェアにおいてタバコに関するアンケートを実施。日本禁煙学会で「事業所での取り組み報告」をアンケート結果も用いて発表。事業所の取り組みも加入事業所から発表してもらった。【協会けんぽ】
- ・ 保健指導実施時にオリジナルの禁煙支援媒体を用いて、禁煙支援を行っている。【日赤健

健康管理センター】

- ・ 受動喫煙防止のため、中小企業事業主が喫煙室を設置する場合は、上限200万円で費用の1/2を助成する制度があることを周知広報した。【労働基準監督署】

#### 【行政】

- ・ 禁煙にチャレンジする方に向けて、禁煙に関する情報を掲載し禁煙の記録欄を設けた「禁煙手帳」を作成し、イベント等で希望者に配布した。
- ・ わくわく健康塾において、大森先生のご協力のもと、禁煙に関する講演会を実施した。講演会終了後、スモーカーライザーの体験や、禁煙手帳、禁煙外来のある医療機関一覧の配布を行った。

### ⑥ 歯・口腔の健康（P30～31）

#### 【関係機関・団体】

- ・ 運動会、地域の仕事（夏まつり・秋祭り）でクイズやフッ化物洗口の実践【8020健康づくりの会】
- ・ 大学祭で「歯たちの検診」を実施。早期からの予防の実践を啓発。【市歯科医師会】
- ・ 熊本県歯科医師会と連携し、事業所における歯援プログラム[質問票及びペリオスクリーン（唾液検査）の実施による歯科指導及び歯科医への受診勧奨]を、スモールチェンジ事業所で実施した。（5事業所112名に対し実施）【協会けんぽ】

#### 【行政】

- ・ フッ化物洗口普及モデル事業の実施校拡大に向け、歯科関係団体等の協力のもと、学校、保護者への説明会や地域での健康づくりに関する催事等での啓発を行い、7校がモデル校として実施
- ・ 生活習慣が不規則になる時期でもある大学生を対象に、歯科健診・相談、歯周病と喫煙等の情報提供を実施。（歯たちの健診受診者107名）※崇城大学にて実施

### <健康を支え守るための社会環境の整備>

#### ① 小学校区単位の健康まちづくり（P32～33）

#### 【関係機関・団体】

- ・ 小学校の総合学習の時間をお借りして「認知症キッズサポーター講座」を開催。小学生に認知症の基礎知識を学んでもらい、同時に高齢者を敬う心を伝えた。【中央区内】
- ・ 託麻原小学校で「高齢者疑似体験・車いす体験」の研修をリハビリ専門職、介護サービス事業所、福祉用具事業所、熊本学園大学社会福祉学部学生、社会福祉協議会と共に行い、その後介護老人保健施設にて高齢者とのふれ合いを行った。【中央区内】

#### 【行政】

- ・ 健康ボランティア（健康サポーター、健康ボランティア医師の会「けんつく会」）との連携
- ・ 校区の組織・リーダーへの働きかけを行い、自分の健康状態を知り、健康づくりを継続し、周囲へ広めることができるように働きかけることを目的とした健康学習会を住民と協働で実施
- ・ 地域での健康づくりに積極的に取り組んでいる人を西区けんこう大使として任命。H27年度は4名の大使を任命し、活動を展開。
- ・ 南区まちづくり自慢大会「健康部門」で、飽田地域、日吉東校区の活動発表があった。



大会参加者は130名。

- 区内全校区にて、事業説明及び校区の健康課題の説明を行った結果、今年度は新たに3校区が取り組みを開始し、ワークショップや役員会を通して「校区のめざす姿」や活動内容を決定した。計7校区にて校区の実情に合わせた組織作りや具体的な活動を開始した。

## ② 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援 (P34~35)

### 【関係機関・団体】

- 家庭の健康づくりサポーターに対し、健康保険（健康づくり・医療費適正化）に関する情報の提供を行った。（登録者583名）【協会けんぽ】
- 8020推進委員をはじめ、ボランティア団体への協力を行う。【市歯科医師会】

### 【行政】

- 健康づくりに関するボランティア養成、活動支援として、食生活改善推進員（H27実績70名）や8020推進員（H27実績57名）、精神保健福祉ボランティア（H27実績12名）等の健康ボランティアを養成。
- 「健康さるく熊本西（医療機関の医師等、専門学校の健康教育に関わる専門家、民間企業等で構成）」が、校区単位の健康まちづくりを支えるボランティア団体として活動することを支援する

## ③ 企業・大学等の健康づくり活動の促進 (P36~37)

### 【関係機関・団体】

- 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスを含む健康管理対策の研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
- 労働安全衛生法に定める衛生委員会の付議事項に関して「健康の保持増進」の項目があり、各事業場における実施状況を確認している。【労働基準監督署】

### 【行政】

- 事業所を対象とした「生活習慣病予防を目的とした食育実践講座」を実施。（19事業所、599人）
- 大学生を対象に九州農政局との協働で生活習慣病予防を目的とした「食育実践講座」を開催し、「食事バランスガイド」についてのパネル展示やパソコン診断等、また、食生活などに関するアンケートを実施。

## Ⅱ 平成 28 年度の取り組み

「がん」対策については、受診率向上に向け、行政及び市民、関係機関・団体等がそれぞれが「受診率向上にむけた取り組み計画」に基づき取り組みを推進する。

「CKD対策」については、人工透析の原疾患1位である糖尿病の早期発見のため、「校区単位の健康まちづくり」との連携により、イベント等における簡易血糖検査を実施する。

次に、「校区単位の健康まちづくり」では、各校区の地域特性や健康課題に応じた取り組みを継続するとともに、災害に強い健康まちづくりに取り組みを進めていく。

\*平成 27 年度の取り組みの継続を基本とし、新たに見直しや工夫を行う事項について記載

○ 主な取り組み等 ※ページ数は「資料 1-2：具体的な施策の展開シート」のページ数

### <生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

#### ① がん (P1~3)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 医科のがん検診の中に、ぜひ口腔癌の検診を入れていただけるように働きかける。【市歯科医師会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、がんをもつ労働者と職業生活とのより良い両立支援の研修を開催するとともに、がん検診への受診向上を目的とした啓発等をおこなう。【熊本産業保健総合支援センター】

##### 【行政】

- ・ 仮設住宅でのがん検診を検討している。
- ・ 特定年齢を対象に、肺がん検診に加え、胃・大腸がん検診についても記載した受診勧奨チラシを個別送付。
- ・ 受動喫煙防止のため、必要に応じ、親子（母子）健康手帳交付時に禁煙手帳の交付を行う。

#### ② 循環器疾患 (P4~6)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 協会けんぽとの契約により、血液検査を実施。本人の健康度評価・途中終了者の回避に活用する予定【日赤健康管理センター】
- ・ 中等度高血圧が経年的に持続している受診者への積極的受診勧奨（紹介状に準じる受診勧奨ハガキを作成し受診者へ渡している）【日赤健康管理センター】

##### 【行政】

- ・ 平成 28 年 8 月 10 日に雁回館避難所にて、健康セミナーを実施した。今後、仮設住宅居住者に対して健康セミナーを計画・実施する。

#### ③ 糖尿病 (P7~9)

#### 【関係機関・団体】

- 要医療者への受診勧奨を強化する。受診確認後、受診継続のための事後フォローまで行う予定。【協会けんぽ】
- 熊本地域糖尿病療養指導士研修会へ参加し、受診者への支援に役立てる予定。【日赤健康管理センター】

#### 【行政】

- 避難所健康チェックを行い、震災後の生活習慣の変化に伴う生活習慣病の発症予防、悪化防止を図り QOL の維持を図った。

#### ④ CKD（慢性腎臓病）（P10～11）

#### 【関係機関・団体】

- H26 年度の分析結果から、人口透析導入の時期を遅らせるため、独自に基準を設けた対象者へ受診勧奨を行う。受診確認後、受診継続のためのフォローまで行う予定。【協会けんぽ】

### <社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

#### ① こころの健康（P12～13）

#### 【関係機関・団体】

- 震災後は「心とからだの健康観察」を定期的実施し、子どもたちの状態を把握し、早期にカウンセリングにつなげている。【長嶺小】

#### 【行政】

- 自殺予防月間に市民への周知を目的としたラッピング電車を運行する。

#### ② 次世代の健康（P14～15）

#### 【関係機関・団体】

- 親子を対象としたセミナーを実施【日赤健康管理センター】

#### ③ 働き盛り世代の健康（P16～17）

#### 【関係機関・団体】

- ストレスチェック導入に伴う健康相談体制の構築。【日赤健康管理センター】
- 「勤務問題」に関し大きな負担を抱えやすい傾向がある新入社員や 20 歳代の労働者を中心に若年労働者へ「メンタルヘルス教育」を事業所に訪問し実施。【熊本産業保健支援センター】

#### ④ 高齢者の健康（P18～19）

#### 【関係機関・団体】

- 震災後の継続支援として、運動指導士や保健師さんと「健康サロン」を実施中。【地域包括支援センター連絡協議会】
- 熊本赤十字病院と連携してロコモティブシンドローム予防教室を実施予定【日赤健康管理センター】
- 託麻原、帯山、帯山西校区では町内（自治会）単位での介護予防教室（百歳イキイキ

体操等)を随時立ち上げる。その際、包括、地域リハビリテーション広域支援センターが、担い手と支え手が主体的に運営できるように支援する。【中央区】

### <健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

#### ① 栄養・食生活 (P20~21)

##### 【行政】

- ・ 熊本地震の発生後、野菜補充を目的とした避難所における炊き出しを食生活改善推進員協議会の協力を得て、区の栄養士と協働で実施した。

#### ② 身体活動・運動 (P22~23)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 毎年3月に楡木校区グランドゴルフ大会を行っている。(120人~130人参加)11月に各町内毎に大会を行っている。(景品を準備して喜ばれている)【北区内】

#### ④ 飲酒 (P25~26)

##### 【関係機関・団体】

- ・ H27.7 肥前精神医療センター主催の「ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修」に参加した。今後の減酒支援に活用していく予定。【日赤健康管理センター】

#### ⑤ 喫煙 (P27~29)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 医療保険者からの委託で企業・事業場へ出向き出張禁煙セミナーを実施予定。【日赤健康管理センター】

##### 【行政】

- ・ 受動喫煙防止のため、親子(母子)健康手帳交付時に、禁煙手帳を交付する。

#### ⑥ 歯・口腔の健康 (P30~31)

##### 【関係機関・団体】

- ・ 健康サロンなどで、口腔の大事さを啓発中。【地域包括支援センター連絡協議会】
- ・ 校区老人クラブでのお口の健康の周知(出水南校区1町内~10町内)【8020健康づくりの会】
- ・ 市総合体育館(拠点避難所)での(5月~8月)お口の健康(ゲームや体操等)【8020健康づくりの会】

##### 【行政】

- ・ 市役所、区役所、コンビニエンスストア等において、無料歯科検診付き予防啓発カードを配布し、歯科疾患の予防を図る。
- ・ 自動車学校と連携した若い世代への啓発イベントを実施。
- ・ 熊本地震における避難所、仮設住宅等における歯科保健活動の取り組みを行い、他職種と連携し総合的な健康づくり活動の実施。

### <健康を支え守るための社会環境の整備>

### ① 小学校区単位の健康まちづくり (P32~33)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 帯山校区2町内では、空き家を活用して高齢者のサロンを立ち上げ、そこを拠点として介護予防や健康づくり、さらに生活支援サポートを創出していく予定である。【中央区内】
- ・ 楡木校区まちづくりワークショップで決めた目指す姿を明確にするため、10~11月より行う。又垂れ幕も仕上げていく。又月3回程度委員会を開催して取組み方、協会団体、メンバーを決めていきたい。【北区内】

#### 【行政】

- ・ 12月に職員を対象にしたソーシャルキャピタル(社会や組織における人と人との“つながり”の蓄積)についての研修会を開催。

### ② 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援 (P34~35)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 地域の健康ボランティアの方々と、健康教室を展開していく予定。【地域包括支援センター連絡協議会】
- ・ 地域リハビリテーション広域支援センターによる介護予防サーポーターとして町内単位の介護予防・健康づくりの担い手の育成・養成支援を考えている。【中央区内】

#### 【行政】

- ・ 健康をつくるボランティア医師の会(東区)発足支援

### ③ 企業・大学等の健康づくり活動の促進 (P36~37)

#### 【関係機関・団体】

- ・ 熊本大学政策創造研究教育センター河村准教授と協定締結の更新【協会けんぽ】
- ・ 自治協議会主催の会合でボランティアサポーター養成制度に協力を依頼していく。定期的に委員会を開催していく。(ボランティア協力者を増やす。)【北区内】